

下北山村のまちづくり

豊かで活力ある持続可能な村を創る



令和4年11月5日

下北山村長 南 正文

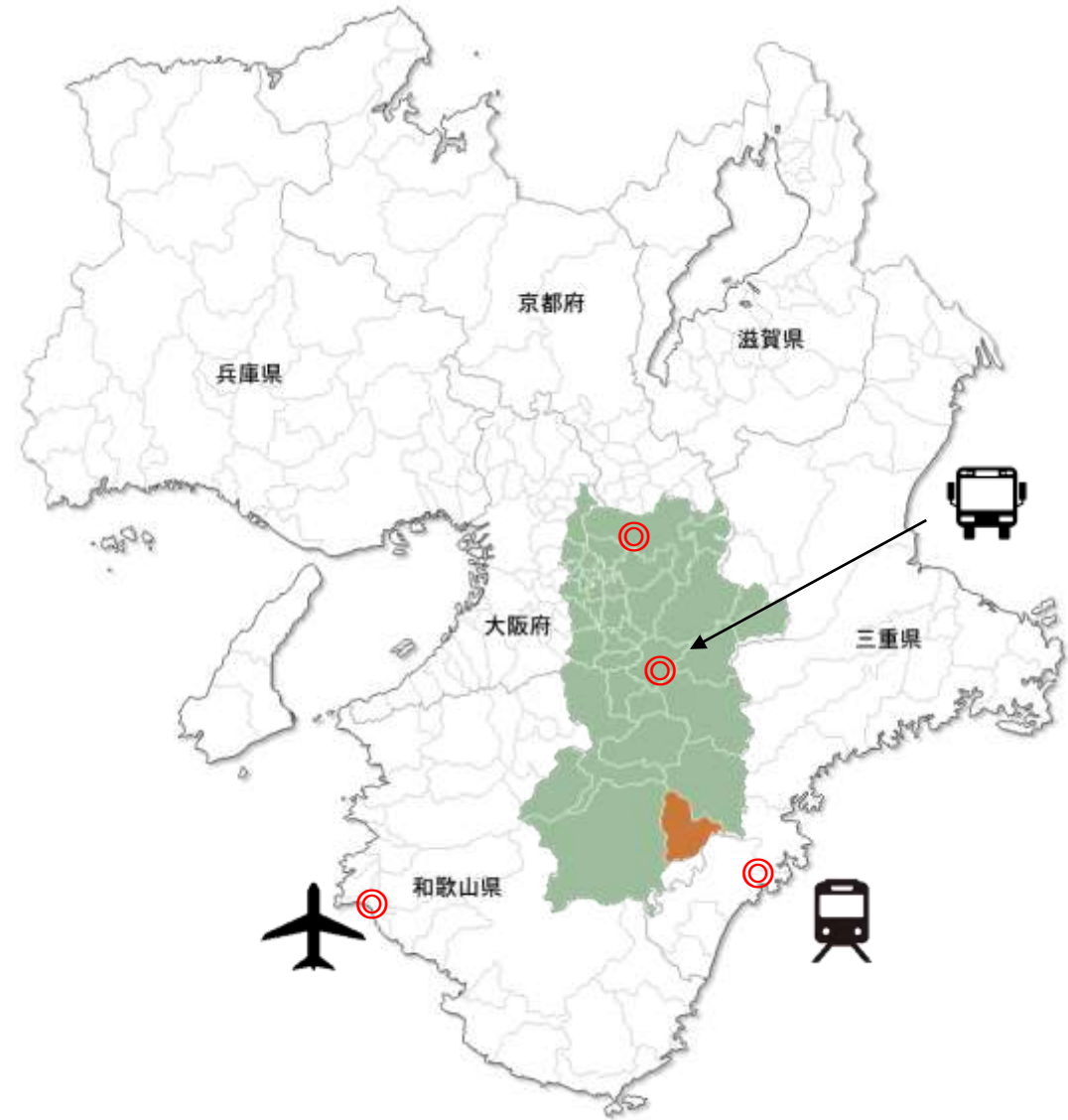
1 下北山村の概要

2 観光資源

3 村の課題

4 課題に対する施策

5 まとめ



人口 8 2 2 人 (令和4年10月1日現在)

世帯 5 2 7 世帯

面積 1 3 3 . 3 9 km²

森林率 9 2 % 約13000ha

交通

[車で] 奈良市から **2時間40分**
三重県熊野市駅から **40分**
和歌山県白浜空港から **2時間**
[バスで] 大和上市駅から **2時間30分**

■ 下北山スポーツ公園キャンプ場 KINARI Camp!

日本最大級のキャンプ場検索・予約サイト『なっぷ』で2017年、2018年、2020年、予約件数部門
[西日本]第1位を獲得



池原ダムと山並みを表現したロゴマーク

■ 下北山温泉きなりの湯

年間約7万人の利用者



■ 池原ダム湖

ブラックバス釣りの聖地 総貯水量3億3480万立方メートル



人気ルアーメーカーとコラボしたPR商品の開発

■ 前鬼不動七重の滝

総落差 160m 日本の滝百選

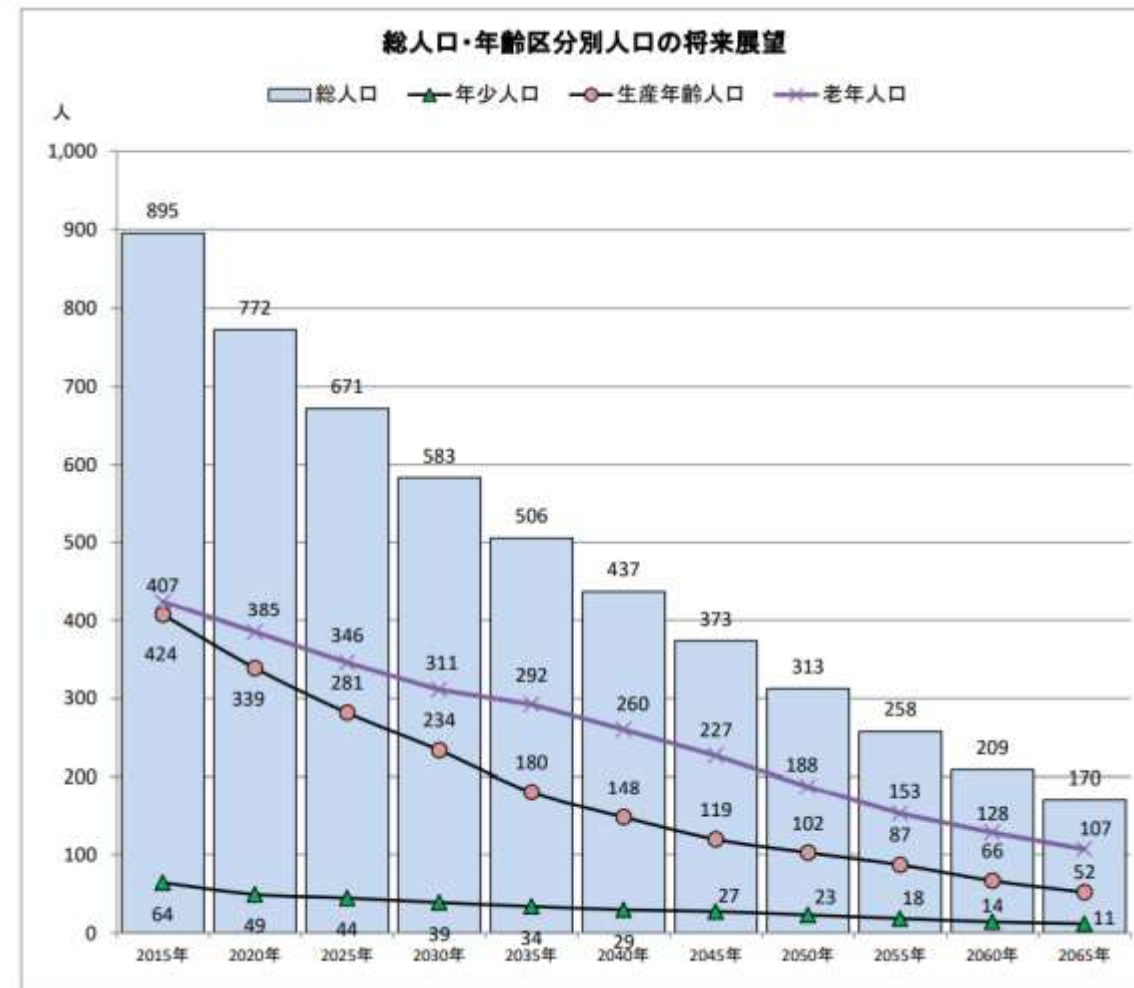


前鬼ブルー

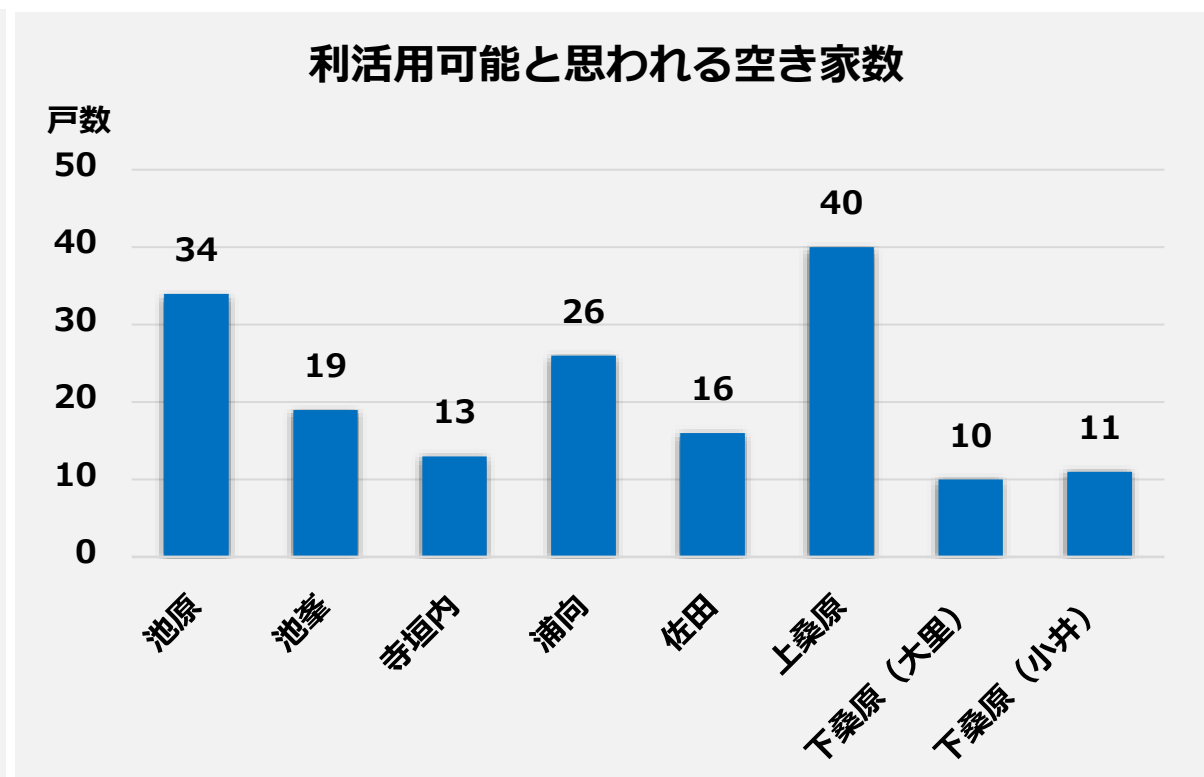
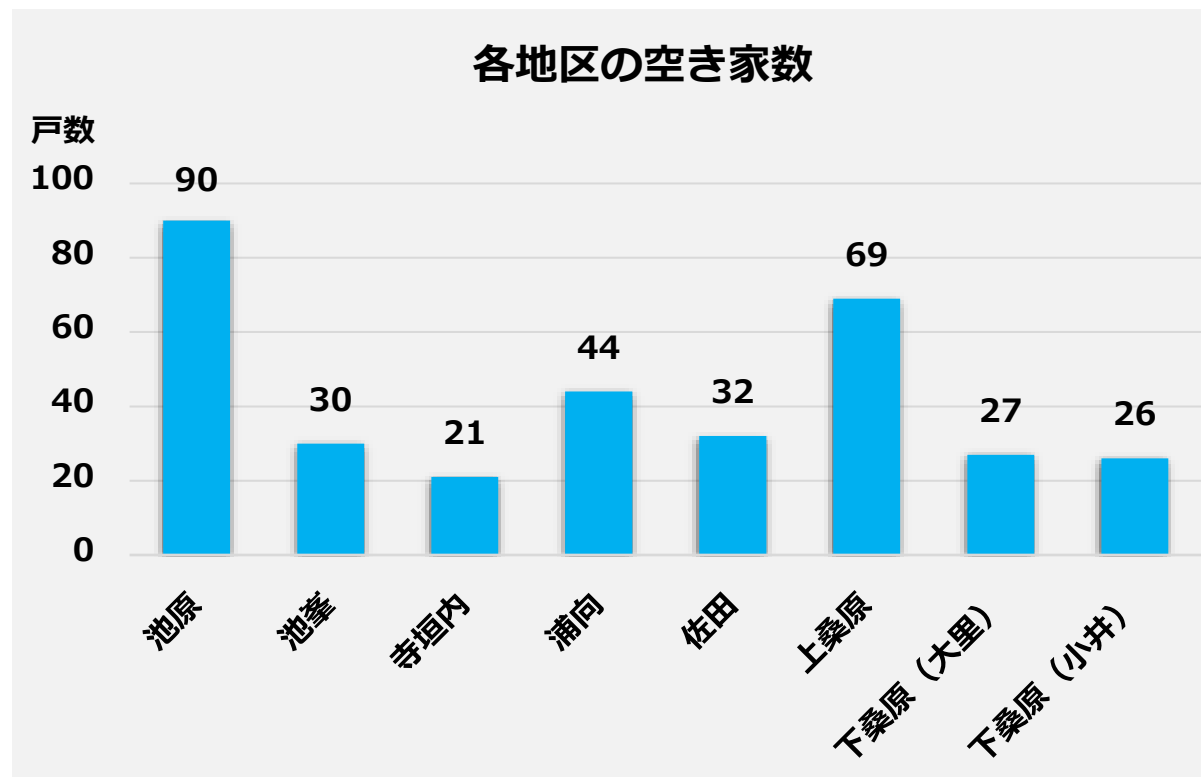


☑ 少子高齢化による人口減少で地域活力が低下

今後も高齢者、生産年齢人口の減少が見込まれる。



☑ 少子高齢化による人口減少で空き家が増加



※令和2年度 空き家実態調査の外観目視調査結果

管理不十分の空き家は周辺住民に悪影響を及ぼす可能性がある。空き家を有効活用することで地域活性化に繋げる必要がある。

☑ 適切な管理が行われていない施業放置林が増加

生物多様性の保全

土砂災害の防止

水源かん養

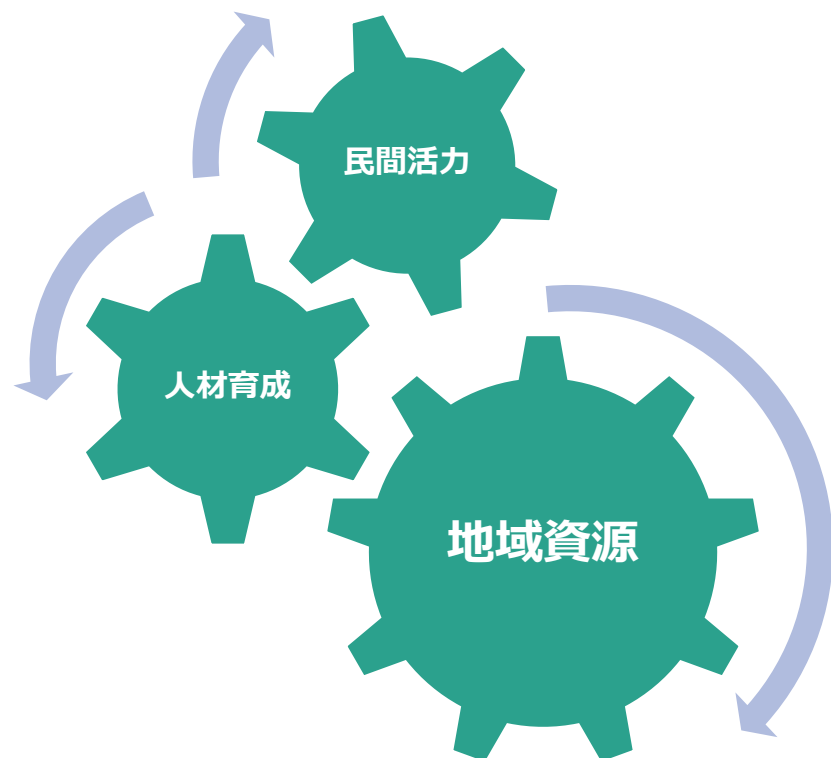
地球温暖化の防止

森林の公益的機能が十分に発揮できていない

- ・ 多面的機能を勘案して優先順位をつけた山林整備
- ・ 担い手の育成
- ・ 木材の利活用



民間のノウハウや技術を生かした行政運営



下北山アイデア村（ソン）

旧下北山保育所の活用方法を村内外の多様な視点でアイデアを出し合い、地域のハブになる拠点を共創する。



価値創造型人材育成プログラム

都市部企業人材と地元人材がワークショップを通し、自己探求・地域のビジョン探究を深め、行動を起こす人材を育成する。



アデコ株式会社、小田急電鉄株式会社、株式会社丹青社、株式会社鳥取銀行、株式会社ドットライフ、株式会社矢野経済研究所、倉吉市、下北山村、前田建設工業株式会社、ミツフジ株式会社

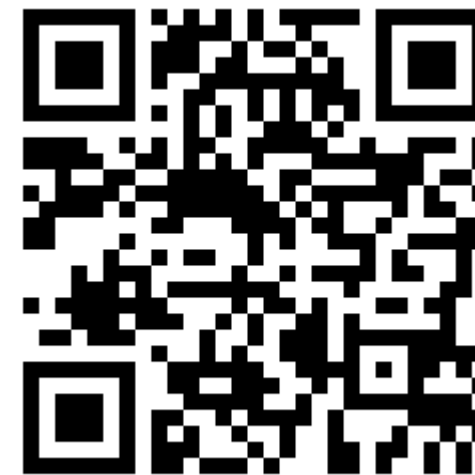
ワーケーション実証実験

全日本空輸（ANA）と連携してワーケーションプログラムの開発や環境整備の実証実験を実施。



大自然がオフィスになる。

下北山村ワーケーション



企業向けワーケーション情報ウェブサイト

南部地域のゲートウェイとなる拠点づくり

グラウンドの整備やサッカーチーム「奈良クラブ」と連携し地域活性化に取り組んでいる。



大学の知見を活用した村の課題解決

奈良女子大と連携し、地域課題に迅速かつ適切に対応し活力ある地域社会を形成。村内で「宿泊型転地療養サービス」を提供する株式会社リヴァと奈良女子大が協力し、調査、研究を実施。

▼奈良女子大と包括連携協定



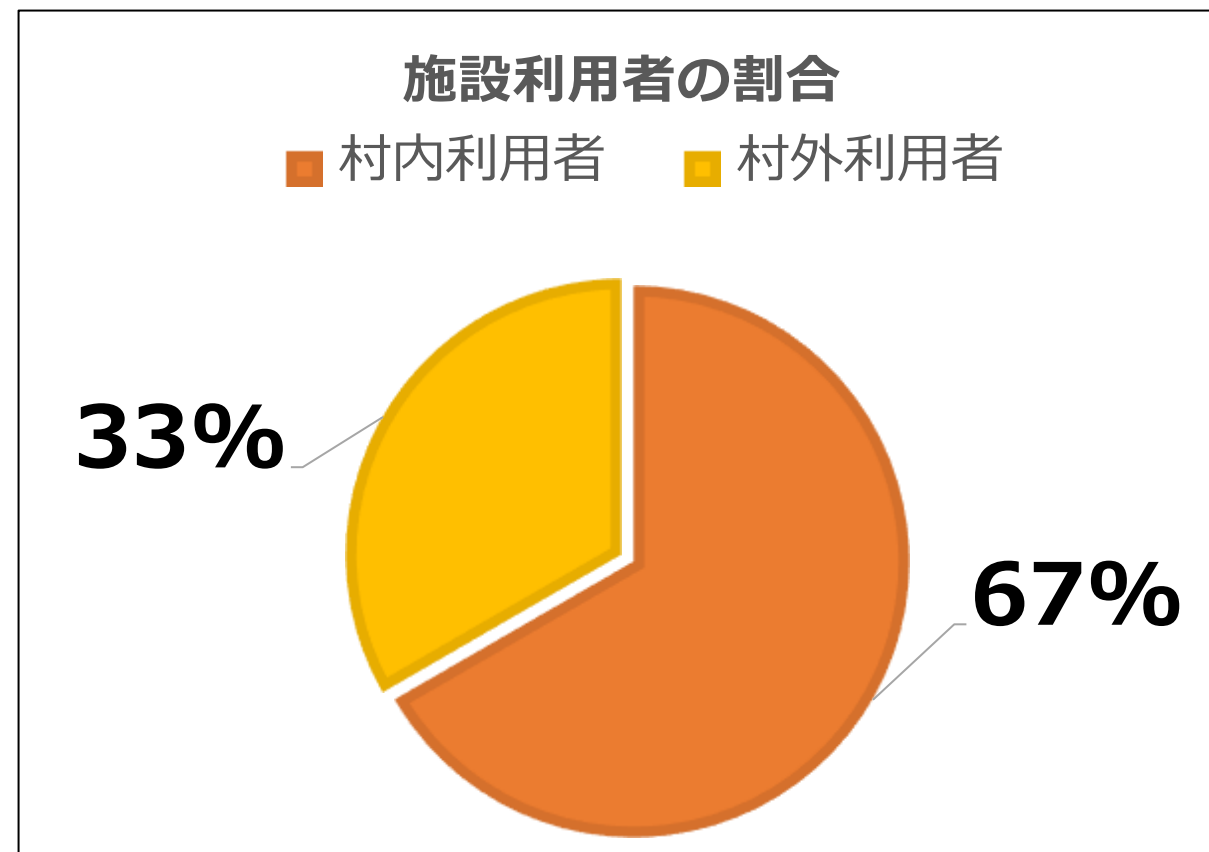
▼奈良県と下北山村と株式会社リヴァで連携協定



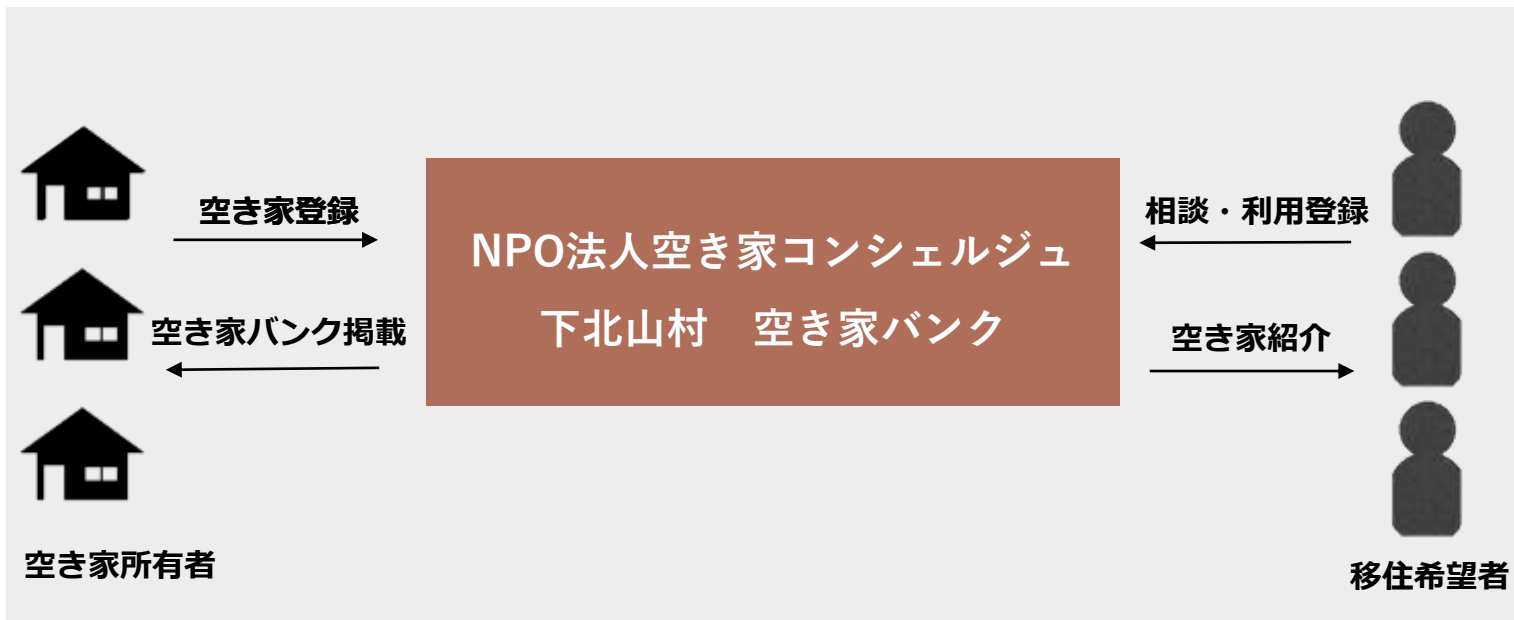
宿泊型転地療養サービス「ムラカラ」とは自然豊かな下北山村の環境を活かし、シェアハウスでの生活や、メンタルケアのプロによるサポートにより疾病と向き合い、より自分らしい人生へと踏み出すためのサービス。

多様な働き方に対応した施設・環境の整備 [コワーキングスペースBIYORI]

コワーキングスペース、オフィススペース、オープンキッチン、個室、Wi-Fiを完備しテレワーカーを誘致。
オフィススペースは現在3事業者が契約。造園設計・各種デザイン事務所 [non design]、釣り具メーカー [ラインシステム株式会社]
商社 [TA商事] が入居し村内での事業を推進。



空き家バンクによる空き家の利活用促進



空き家コンシェルジュ事務所を開設
空き家の総合相談窓口業務

住宅活用補助金制度

新築

空き家改修

賃貸物件改修

空き家購入

▶ Uターン・Iターン者の促進、地域の活性化に寄与する空き家の購入、活用を支援する制度で村内に居住することを目的に住居を新築、または空き家を購入、改修する費用の一部を助成



サポート体制の強化

空き家の活用による移住促進、地域活性化

■ 移住交流体験施設「むらんち」

令和元年度、空き家を関係人口と地域の人でリノベーション。移住検討者、テレワーカー、大学生等を受け入れ。関係人口の創出にも期待。令和3年度、約80名の利用実績。うち7名が移住を実現。

■ テレワーカー向け中期滞在住宅

令和3年度、空き家を地域の方と改修し、テレワーカー向け住宅として賃貸を開始。東京からの移住者が現在利用中。



民間事業者と連携した森林の整備と木材の利活用促進

自伐型林業の手法を使った、放置林整備や公共施設の木質化による木材活用の促進。



▼下北山保小中合同校舎



民間事業者と連携した林業の担い手育成

地域おこし協力隊（林業）から定住を目指し、自伐型林業の技術を学ぶ人材育成を実施。



豊かで活力ある持続可能な村を創る



1

地域資源の活用

2

地域人材の育成

3

民間活力の活用